

## 笑われて、つよくなる

山形県山形市立第三中学校

一年 大類

凜

「笑われて、つよくなる」という言葉があります。これは太宰治の言葉です。私はこれを聞いたとき、驚きがあったとともに、たくさんの力をもらった気がしました。

そもその始まりは、小学生のころに読んだ太宰治の伝記でした。私は、人見知りで、自分に自信が持てませんでした。授業などでも、手を挙げて発言してまちがって笑われたらどうしようと思う気持ちがあり、手を挙げて、自分の意見を言うことができない、少し厄介な性格でした。自分でも、直したいと思っていたし、まちがってもだれも笑ったりしないともわりの人は言ってくれます。でも、どうしても、手を挙げなきゃと思うのに人の前で堂々と話すことができない、そんな自分が大嫌いでした。そんなとき、図書室で、ふと目に入ったのが太宰治の伝記でした。借りて読んでみると、「笑われて、笑われて、つよくなる」という言葉が目に入りました。この言葉にはとても驚きました。人は、笑われて、笑われて、つよくなっていく、それならたくさん笑われても良いから、少しずつ変わっていこうと思いました。

このときから私は、少しずつではあるけれど自分

で意識して変わっていく努力をしました。たとえば、自分の考えなど話すときは、一度深呼吸してからできるだけ落ちついて、話すようにします。すると、声がうわずったりしないし、話しているときも、人の目を見て話せるようになっていきました。中学校に入ってから、自分の意見を言うことも増えたり、委員会に入ってから、連絡を手を挙げて話せるようになりまし。でも、やっぱり授業では、まだ手を挙げるのができません。たぶんまだ努力がたりないんだと思います。そう思うと、自分の中で、あせりが出てきます。そんなときは「笑われて、つよくなる」という言葉を思い出してみます。そうすると、ゆっくりでいいから変わっていこうと、あせりは消えていきました。

私は人前で堂々と話したりすることはできません。でも、堂々と話す人はたくさんいます。そんな人たちを見ると、自分だけなんだろうかと、少し心配になるところがあります。それを人に相談してみると、「私もだよ。」と返ってきました。私は、そこで少しホッとしました。でも、やっぱり変わらなくては、いけないと思います。ですので、「人の目を見て話す」の次は、あいさつをしてみようと思いました。友達とはともかく、先輩や、先生、地域の人のあいさつはとても緊張するし、返してもらえなかつたらどうしよう、笑われてしまったらどうしよう、そう思うと、どうしてもうまくあいさつをすることができません。そこで思いうかぶのはやっぱりあの言葉でした。そこで、あいさつの基本を思い出して、目を見て、大きな声であいさつをしてみると、相手も会釈をしてあいさつを返してくれたり、笑顔であいさつを返してくれたりしました。

私は、思い返せば、あの言葉にはたくさん力をもらったなと思います。緊張したときや、どうしても

勇気が出ないとき、思い出して心の中でつぶやいてみると、自然と勇気や自信が出てきます。人見知り、自分に自信の持てなかつたころの自分と比べれば、大きく成長できたと思います。中学生になり、人と関わる事が多くなりました。部活動が始まり、授業ごとに先生が替わります。自分の意見を自分の言葉で発表する場が多くなりました。たくさんの変化のある生活の中で、自分の中で笑われても良い、失敗しても良い、その分つよくなる、そんな意味のある「笑われて、つよくなる」の言葉には、たくさんの「チカラ」をもらったと思います。実際に、この言葉を見てから、自分の中でたくさんの変化がありました。

私は今年、文化祭の実行委員になりました。文化祭当日は、クラスごとの合唱発表の時に誘導をします。実行委員は、クラス全体に連絡したり、実行委員会で話し合いをしたりします。私は実行委員として、クラスの合唱リーダーに頼ってばかりにならず、自分から周りに声をかけていくことが目標です。あいさつや連絡のような決まりきった言葉ではなく、自分の言葉で呼びかけをすることは、とても緊張します。でも、「笑われて、つよくなる」という言葉を胸に、失敗を恐れず挑戦したいと思います。